時	ねらい	学　習　活　動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 聖徳太子の政治	飛鳥時代から平安時代までの日本の政治の動きを調べることを通して、日本が天皇を中心としたひとつの国になっていくことに気づき、単元の課題を設定することができるとともに、聖徳太子が大陸との結びつきを背景にして天皇中心の国づくりを目指したことがわかる。	1，飛鳥時代から平安時代までの歴史のなかで、聖徳太子が政治をした時代を確認し、本時の課題を設定する。 聖徳太子はどのような国づくりをしたのだろうか 2，聖徳太子がどんな国づくりをおこなったのか調べ、交流する。 ・豪族同士の争いが続いたので、仏教を大切にして争いをなくそうとした。 ・世の中を安定させるために、天皇中心の日本を目指して国づくりを進めた。 ・身分のある人を取り立てる仕組みをつくった。 ・戦争を避けるために、中国を統一した隋と仲良くしようとした。 3，聖徳太子の死後の政治の動きから、単元を貫く課題を設定する 《単元を貫く課題》 **「どのようにして** **天皇中心の国づくりをしたのだろうか」** 4，本時の感想を書く	〈アー①〉 聖徳太子の国づくりの理想と、太子死後の日本の歴史を比較し、単元を貫く課題に関わる疑問をもつことができる。 ＜場面＞終末・授業後 ＜方法＞ ノートの記述や、発言内容から、単元を貫く課題に関わる疑問を持つことができたか分析する。	◇歴史年表 （歴史年表資料） ◇「十七条の憲法」 （教科書） 援助 聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指したことを確認し、太子の死後、すぐにそれが実現できているかを確認させる。 政治権力を握ったのは誰か、確かめさせる。
		飛鳥時代から平安時代まで、いろいろなことが起きている。聖徳太子のころから、日本は新たな国づくりが始まったようだが、すぐには天皇中心の国づくりはできなかったようだ。どんな日本ができていくのだろうか、気になるなぁ。		
2 大化の改新	中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を倒しておこなった政治改革の方針について考えることを通して、公地公民制を行い、さまざまな仕組みを整えた天皇中心とした律令国家をつくろうとしたことがわかる。	1，聖徳太子死後から大化の改新までの国内の主な動きを調べて、本時の学習課題を設定する。 ・太子の死後、蘇我氏が権力を握った。 ・朝鮮半島や唐と対抗する力をもたなければならなかった。 大化の改新とはどんな政治改革だったのだろうか 2，改新の詔から，改革の方針を調べ交流する。 ・豪族の土地と人民を国のものにした。 ・日本は天皇のものにした。 ・天皇中心の政治の仕組みを整えようとした。 ・戸籍をつくり、税の仕組みを整えようとした。 3，本時のまとめをする。	〈ウー①〉 改新の詔から新しい国づくりの方針を読み取っている。 ＜場面＞活動２のなかで ＜方法＞ 発言内容やノートの記述から、年表や資料から読み取った内容を根拠として、国づくりの方針をつかめているか分析する。	◇歴史年表 （歴史年表資料） ◇「大化の改新の詔」 （歴史年表資料） 援助 難しい語句については解説を加え、詔の内容を箇条書きにして書き出させる
		天皇中心の国づくりを目指した聖徳太子の理想は、中大兄皇子らによって受け継がれた。日本を取り巻く様子は油断ができない。大化の改新といわれる政治の改革が始まって、日本が唐のように大きく変身していくようだ。政治を変えようとする理想は、どのようにして実現されていったのだろうか。		
3 律令国家の成立	大宝律令の主な内容や当時の社会の様子を調べることを通して、天皇を頂点として全国を統一的に支配しようとする律令国家の仕組みがつくられていったことがわかる。	1，前時を振り返り，本時の学習課題を設定する。 改新の詔は、どのようなものに実現されたのか 2，資料から調べ、交流する。 『役所の仕組み』 ・中央に８省が置かれている。地方に国司がいる。 ・大宰府など特別な役所が置かれている。 『土地制度・税制』 ・条里制や班田収授法など決まりが整備された。 ・戸籍ができた。税の仕組みが整った。 『平城京』 ・唐の長安をまねて整った都が作られた。 ・政治をおこなう街であり、全国からいろいろなものが集まった。 3，教師の説明を聞き，調べた内容を確認する。 4，本時のまとめをする。	〈エー①〉 政府組織と土地制度、税制といった律令国家の基本的な仕組みを理解している。 ＜場面＞活動２のなかで ＜方法＞ ノートのまとめかた・記述から律令国家の基本的なしくみを理解しているかたしかめる。	◇「律令による役所の仕組み」 ◇「平城京の中心部の模型」 （以上、教科書） ◇「土地制度」 （歴史年表資料） 援助 仕組みについて理解できたか確認し、キーワードを使って、律令国家のしくみについて生徒同士で説明させる。
		改新の詔は、いろいろな「令」ができたり直されたりしながら、「律」と共に『大宝律令』として完成した。日本は、自分たちで作った決まりを基にして政治を進める、隋や唐のような律令国家になっていったのだ。とても発展してきたといえる。日本の政治の仕組みや国としての外見は整ったようだが、実際の国内はよい世の中になっていたのだろうか。		

時	ねらい	学　習　活　動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4 奈良時代の貴族と農民	貴族がぜいたくな食生活を送ることができた理由を考えることを通して、貴族の生活は農民に重い負担をかける律令の仕組みに支えられていたことがわかるとともに、負担に苦しむ農民の逃亡や口分田の不足などから墾田永年私財法が出されて、公地公民制が崩れたことがわかる。	1，貴族と農民の食事を比較して、本時の学習課題を設定する。 ・貴族はいろいろなものを食べてぜいたくだ。 ・農民はすごく貧しい食事だ。 どうして貴族と農民の間に こんなに大きな生活の差ができたのだろうか 2，学習課題ついて資料から調べて交流する。 （貴族の生活について） ・貴族は特権を持ち、農民からの税が収入になる。 ・多様な食材は各地からの「調」だ。 ・位があがるほどよい暮らしができる。誰かが出世すれば一族が出世できる。だから激しい出世競争がおきたのだ。 ・貴族は農民たちを犠牲にしてぜいたくな暮らしをしていたのだ。 （農民の生活について） ・重い負担に苦しんでいた農民たちの中には逃亡するものも出てきた。 3，墾田永年私財法の内容について理解し、その成立の背景について考える。 ・逃亡などで口分田が不足してきた。 ・税をとるために、律令制度を変えてしまった。せっかく作った公地公民が崩れてきた。 4，本時のまとめをする	〈イ―①〉 仲間との交流を通して，貴族と農民の生活の差を生む原因について、自分の考えを深めている。 <場面>活動２のなかで <方法>発言内容 仲間の意見を１つ以上取り入れながら，ぜいたくな貴族生活とそれを支える農民の関係を、説明できているか分析する。	◇「貴族の食事」、「農民の食事」（教科書） ◇「貴族の暮らし」 ◇「農民の暮らし」 ◇「防人の歌」 （以上、教科書） ◇「公地公民制の崩れ」 （歴史年表資料） ◎貴族と農民の立場を選択させて資料の読み取りをおこなう。 援助 同じ立場を選択した生徒と、意見の交流をさせ、仲間の意見をメモさせる
		朝廷の中で政治の中心にいた一部の政治家が貴族となり、全国の農民たちからいろいろな税を搾り取ってぜいたくな暮らしをしていた。貴族は自分たちの暮らしを守るために、他の貴族と争ったようだ。さらに、私有地を認める決まりを作るとは、せっかく作った律令制度を貴族がもう壊し始めている。農民は、貧しい生活をしていて、これでは農民がかわいそうだ。こんな世の中ではだめだ。		
5 平安京と藤原氏	平安時代に藤原氏がどのようにして力をつけてきたかを調べることを通して、天皇家と血縁関係を結び、摂関政治をおこなったことや、公地公民制の崩れにより、多くの荘園を持つようになったことが理解できる。	1，どのようにして奈良時代が終わったのか調べ、交流する。 ・道鏡事件など、政治が混乱した。 ・それまでの天皇の跡継ぎが途絶えた。 ・桓武天皇が平安京に都を移して、律令政治を建て直そうとした。 2，平安時代中ごろの主な動きを調べて、本時の学習課題を設定する。 どのようにして藤原氏は力をつけたのだろうか 3，資料から藤原氏が力をつけてきた理由を調べ、交流する。 ・娘を天皇の妻とし、天皇家と親戚関係になった。 ・摂政、関白の位について政治をおこなったから。 ・多くの土地を持ち、収入が多くてよい暮らしをしていた。 ・他の有力貴族を追い落としていった。 ・祖先が手柄を立てて出世した家柄であり、一族で高い位を独占していた。 ・藤原氏と仲良くなって出世しようとした貴族から、多くの贈り物を贈られたから。 4，本時のまとめをする	〈エ―②〉 藤原氏と天皇家の関係が説明でき、摂関政治の基本的な仕組みについて理解している。 <場面>終末・授業後 <方法> 本時のまとめのなかで、藤原氏の権力が「他氏排斥」「縁戚関係」「荘園収入」によって支えられていたことが説明できているか分析する。	◇歴史年表 （歴史年表資料） ◇「藤原道長の栄華」 ◇「藤原氏の公卿の増加」 ◇「藤原氏の収入」 （以上、歴史年表資料） 援助 黒板に書き出したキーワードを使って、ひとつひとつ箇条書きでノートに説明を書けるようにする
		律令による国づくりが整った奈良時代が、混乱の中で終わっていき、それを立て直そうとして桓武天皇による政治が始まった。そのシンボルが平安京なのだ。でも、朝廷では貴族の出世競争がまだ続いていて、藤原氏がその中で勝者となっていった。天皇家と親戚になった藤原氏が摂政や関白となって、朝廷の政治を思うように動かすようになった。その後の日本はどうなってしまうのだろうか。		

<table>
<tr><th>時</th><th>ねらい</th><th>学　習　活　動</th><th>評価規準・場面・方法</th><th>資料および指導・援助</th></tr>
<tr><td rowspan="2">6
国司と農民</td><td rowspan="2">各地に有力農民が登場してきたことと国司をめぐる逸話をから地方の様子を読み取ることを通して、公地公民制の崩れが農民の成長をもたらしたことや、収奪に励む国司の実態が代表する地方政治の乱れがわかり、平安時代の社会を大きく概観できる。</td><td>1，前時を振り返り，本時の学習課題を設定する。
藤原氏が栄えていたころ、地方の農民は
どんな暮らしをしていたのだろうか
2，農民の生活について、資料から調べ交流する。
・開墾を進めて農地を広げ、二毛作をはじめ、作物の品種を増やして生産を増やした。
・他の農民を指揮し、まとめる有力農民が現れた。
・国司は自分の財産を増やそうとするばかりだ。
・地方の政治はめちゃくちゃになってしまった。
3，当時の農民の思いを想像して交流する。
・先祖代々地道に働いて財産を増やしてきたのに誰も守ってくれない。こんな世の中はいやだ。
・誰かに守ってもらおうとしたら藤原氏が一番だ。やっぱり自分も贈り物をして藤原氏に近づきたくなるなぁ。藤原氏が栄えるわけだ。
・自分の財産を自分で守るしかないのか。武器を用意して自分の力で守るしかない。
・政治に不満を持っている人が多い。その人たちをまとめれば世の中を変えることができるかもしれないぞ。
4，荘園に関する教師の説明を聞き，本時のまとめをする。</td><td>〈エ―③〉
有力農民が自分の財産を守ろうと努力していたことを理解し、5行程度の文で農民の思いを書くことができる。

＜場面＞活動3のなかで
＜方法＞
ノートへの記述から、資料から読み取ったことや前時までの学習に基づいて、農民の思いを考えることができているか分析する。</td><td>◇「有力農民の農業経営」
◇「地方政治の乱れ」
（以上、歴史年表資料）

援助
自分が農民だったら、どうやって財産を守ろうとするか、仲間と話し合わせ、それをもとにノートに農民の思いを書かせる</td></tr>
<tr><td colspan="3">藤原氏が栄えていたころ、国司は税を取り上げようとするばかりで地方の政治は混乱していた。地道に努力して財産を増やしてきた有力農民は、自分の財産を自分で守らなくてはならないようだ。長い時間をかけてせっかく作り上げた律令制度も、平安時代の中ごろには形だけになってしまった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7
古代の文化</td><td rowspan="2">古代の文化を整理･比較することを通して、古代の文化には大陸から文化を積極的に取り入れた時期とそれを国風化して日本独特の文化を作り出した時期のあることがわかり、その既習の学習内容と関連付けて考えることができる。</td><td>1，奈良時代と平安時代の文化財を仲間わけして、本時の学習課題を設定する。
天平文化と国風文化の違いは何だろう
2，各文化の特色の違いを調べ、交流する。
（奈良時代の文化）
・律令国家を目指していたので、熱心に中国から学んでいた。中国風の生活をすることが進んだ生活だったのではないかな。
・遣隋使に始まる中国との交流によって中国やシルクロード経由で世界の文化が日本に流れ込んでいた。
・文化に仏教の影響が強いが、平安時代とは違って仏教が政治に利用されていた。
（平安時代の文化）
・唐の衰えから遣唐使が廃止になり、日本が世界とつながりを持たなくなっていった。
・他国との交流がなくなったので、それまでの文化を元にして日本人による文化が作り出されるようになった。
・日本人の生活に合わせた文化が生まれてきた。
・仏教が、政治の道具ではなく、密教による現世の利益や浄土教による死後の幸せを願ったように、個人の心を救う宗教になってきた。
3，古代の文化の内容で、現在の日本人の生活に残っているものを考えて交流する。
・東大寺などの寺院が残っている。
・かな文字は欠かせない日本人の文字だ。
・死後に極楽に行きたいのは今も同じだ。</td><td>〈イ―②〉
政治の動きや社会背景の変化をもとに、奈良時代と平安時代の文化の特色を説明することができる。

＜場面＞活動2・授業後
＜方法＞
発言内容やノートの記述から、唐や西方の影響を強く受けている奈良時代の文化と、貴族の華やかな生活をもとにした国風の文化の特色が説明できているか内容を分析する。</td><td>◇「文化財を仲間わけしよう」
（自作資料）
◇「天平文化」
◇「国風文化」
（以上、教科書）

援助
奈良時代と平安時代の社会の様子や、権力や財力を握っていた身分の生活を思い出させ、それをもとにして文化の特色を考えさせる</td></tr>
<tr><td colspan="3">律令国家建設を目指していた奈良時代には、中国やシルクロード経由の西域の文化が日本に多く見られる。文化も輸入されていたのだ。平安時代になり、唐が衰えたこともあるが日本人は中国のまねをやめて日本独自の文化をつくりだすようなった。中国から多くを学んだから日本らしさをつくることができたのだろう。今の日本人の生活にもつながっているものが多くある。平安時代の文化は貴族の文化であり、農民は参加していないのは、平安時代が貴族の時代だからだ。次の時代は、どんな世の中になるのだろうか。</td></tr>
</table>